第一次 生活クラブ

2030 行動宣言 レポート

Sustainable Report

2020

「第一次 生活クラブ2030行動宣言」の8つの目標に対し
年度ごとの到達点の確認と報告を目的としたレポートです。

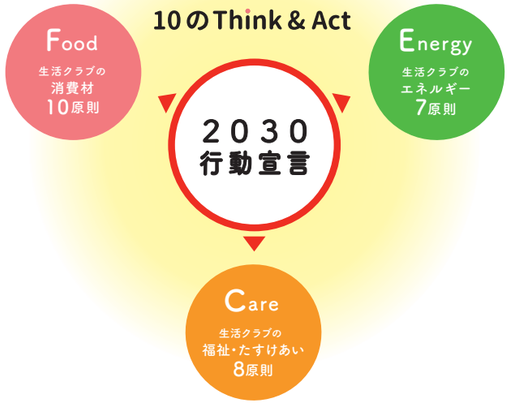
サステイナブルなひと、
生活クラブ

生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会　2020年12月発行

FSC ミックス紙 FSC® C020828

生活クラブに関わるみんなで、サステイナブルな未来をつくる

「第一次 生活クラブ2030行動宣言」は、SDGsの理念に通じ、
かつSDGsに留まらない生活クラブの取組みの中から、さらに推進すべきことをまとめた宣言です。
8つの重要目標を掲げ、サステイナブルな未来の実現をめざしています。
その取組みの一つひとつは、生活クラブにかかわるすべての人々の行動原則である
「10のThink&Act」に基づいています。



生活クラブは、人間の生活に欠かせない「消費材(Food)」、「エネルギー(Energy)」、「福祉・たすけあい(Care)」を地域で自給・循環する「FEC自給ネットワーク※」づくりにチャレンジしています。F、E、Cそれぞれに生活クラブの独自の原則を定めています。
※経済評論家の内橋克人氏が提唱した「FEC自給圏」構想に基づく

10のThink & Act

1 食の安全にこだわります。
生産から廃棄まですべての過程において、添加物や残留農薬をできる限り減らすなど、安全性にこだわります。また、徹底した放射能検査を実施します。健康や環境に与える影響についての情報を積極的に公開します。

2 健康な食べ方を大切にします。
感謝とともに自然のいのちをきちんといただき、明日への元気につなげるために、食材の栄養や調理、食べ方についての知識や技術をみんなで共有し、食のアイデアを出しあいます。

3 国内自給力アップをめざします。
原料や飼料の国産割合を高めることにより"生命の産業"である「農業」「漁業」「畜産」を振興します。消費者と生産者が一体となって、国内自給力の向上を図り、食の自立・健康増進・地域環境の保全に取り組みます。

4 遺伝子組み換え作物を認めません。
企業による種子の独占を招き、また生物の多様性を破壊する遺伝子組み換え作物を認めません。食料だけでなく、飼料、添加物においても取り扱いません。やむを得ず使用する場合は情報を公開します。

5 有害物質ゼロをめざします。
健康や環境をおびやかす有害物質の使用・放出を減らします。有害物質ゼロへ向けて、継続的に活動していきます。

6 自然資源を大切に使います。
水・土壌・森林といった再生可能な自然資源を持続的なカタチで使用します。再生できない自然資源については、次世代につなげていけるよう、節減に取り組みます。

7 ごみの削減に取り組みます。
省資源・リユース・リサイクルを通じて、ごみの削減に取り組みます。また、廃棄物の処分についても、より安全で信頼できる方法を選びます。

8 原発のない社会をめざします。
長期的な視点を持ち、エネルギーのムダ使いを積極的に減らします。消費者と生産者がチカラをあわせ、安全で持続可能なエネルギーの生産・流通に取り組みます。

9 おたがいにたすけあう社会をめざします。
地域の中で安心して子育てや介護ができる仕組みづくりに取り組みます。おたがいにたすけあい、学びあい、支えあう活動をひろげます。

10 自分たちで決めて、自分たちで実行します。
生活クラブは一人ひとりが主役です。組合員に関わる情報は大きなことから小さなことまですべて公開・共有します。その情報をもとに、自分たち自身で考え、決め、実行します。

SDGsでめざす世界のさらにその先へ

SDGs（国連「持続可能な開発目標」）という言葉がメディアなどでも頻繁に聞かれるようになりました。地球環境、気候、格差・貧困、紛争などの迫りくる危機から、2030年までに脱しようという待ったなしの世界規模のプロジェクトです。しかし、お気づきのとおり、生活クラブではすでに2014年から「サステイナブルなひと、生活クラブ」を合言葉に、共同購入や地域活動を通じて持続可能な生活スタイルを実践してきています。これを土台に、これまでの実践をSDGsの17のゴールに当てはめ、さらに今後の到達目標を明らかにしたものが「第一次 生活クラブ2030行動宣言」です。
続いて現在、「第二次行動宣言」の検討をすすめています。これは、SDGsの17ゴールと169ターゲットに照らして、私たちがさらに取り組むべき課題を洗い出し目標化するための作業です。2022年の連合総会決議をめざして全国の生活クラブとともにまとめていきます。
これを機に、これまで「Think & Actデータブック」として毎年発表してきた事業活動報告書を「2030行動宣言レポート」と改題しました。というのも、私たちが掲げた目標が具体的にどこまで到達したのかを数値で明らかにしていくことが重要だと考えるからです。この数字には組合員、生産者、職員やワーカーズ・コレクティブなどの皆さんの日々の生活や活動、仕事の成果が凝縮されています。ぜひ共有いただき一緒にすすめていきましょう。

■2030行動宣言のロードマップ

2020年6月に「第1次 生活クラブ2030行動宣言」を決議。KPIを設定し、達成度を年度毎に評価し進捗を点検する。「第2次」の目標は現在検討中。
※KPI：重要業績評価指標（Key Performance Indicator）

撮影：永野佳世

伊藤 由理子氏
生活クラブ事業連合
生活協同組合連合会　会長

■行動年表

1965（年度）1977	「生活クラブ」結成 合成洗剤の取り扱いをやめ、せっけん利用運動を本格化
1986	チェルノブイリ原発事故を受け、放射能の自主基準を設定
1990	生活クラブ連合会設立総会。協同組合運動が食の自給力向上、持続可能な循環型社会づくりのモデルとなるよう実践すると定める
1993	びんを再使用する「グリーンシステム」スタート
1997	「自主管理監査制度」スタート。「安全・健康・環境」生活クラブ原則を制定。次世代を見据え、生産から廃棄に至るすべての過程で責任をもつとする
2015	生活宣言（ブランド・ステイトメント）と10のThink&Act決定
2016	2014年に設立した㈱生活クラブエナジーを通じて再生可能エネルギーによる電気の共同購入スタート
2018	「生活クラブの消費材10原則」を決定。自主管理監査制度を「持続可能な生産と消費」推進制度へリニューアル
2020	「生活クラブ2030行動宣言」を決議「気候危機宣言」を発表

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは？

世界では、格差と貧困、人口増加、生態系を維持できないほどの大量生産と消費、気候危機など、さまざまな問題が立ちはだかっています。SDGs（エス・ディー・ジーズ）は、これらの問題を2030年までに解決することをめざした、世界共通の目標です。先進国も途上国も区別なく、「誰一人取り残さない」という理念のもと、一人ひとりが自分ごととして捉え、行動することが求められています。

生活クラブはSDGsの理念に通じ、かつ留まらない活動を実行していくことを約束します。

Contents

重要目標1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。……6

重要目標2 素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして ……9
健康で豊かな食の実現をはかります。

重要目標3 地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候変動対策に取り組みます。…11

重要目標4 原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組みます。…13

重要目標5 誰もがその人らしく、安心して生活を営める地域と社会をつくります。……14

重要目標6 貧困と孤立を見過ごさず、自立に向けて寄り添い、支え合い、……15
多様な居場所と働き方をつくります。

重要目標7 非戦と共生の立場を貫き、平和で公正な社会をめざします。……16

重要目標8 情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。……17

DATA 数字でみる動向と推移 ……18

【掲載内容について】 本レポートに掲載している活動やデータは、2019年度（2019年4月～2020年3月）の実績に基づき作成しています。
それ以外の情報に関しては、それぞれの項目内に記載しています。

重要目標

1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

命の産業である第一次産業において、種に至るまでの国内自給を追求し、生産情報の開示をすすめます。また、国内外を問わず、生産に従事する人々の人権に配慮し、合意に基づく調達を行ないます。

持続可能な食の調達と国内自給の追求

生活クラブでは、家庭で消費する基本の食材であり、さまざまな加工食品の原料にもなる一次産品*1を大切にしています。つくり続け、そして食べ続けていけるよう、お米をつくる4産地を中心に各産地と地域まるごとのつながりを持ち、国内自給力のアップをめざしています。

4産地合計

米の注文数量 1,267,875袋（18年比100.3%）

米の注文金額 18年比100.1%

山形県

45年以上にわたり、生活クラブの食を支える産地です。豚肉や農産物など、食の提携に留まらず、太陽光発電所の建設や酒田市とは市民参加型のまちづくりを進めています。

「庄内 遊YOU米」の田んぼ（遊佐町）

米

品目数：14品目

注文数量：840,385袋

加工食品原料

出荷先：11生産者

加工食品原料の出荷量：337.5t

［加工用米 161.5t　大豆 131.1t　酒米 21.8t　そば 22.1t　なたね 0.4t　加工用トマト 0.6t］

宮城県

約35年前にしめ飾りから提携がはじまり、野菜や米などに幅を広げてきました。2015年から米の取組みもスタート。国内自給力の向上にともに取組むパートナーです。

加工用トマトの畑

米

品目数：6品目

注文数量：64,716袋

加工食品原料

出荷先：4生産者

加工食品原料の出荷量：218.1t

［加工用米 97.9t　加工用トマト 87.2t　白菜 33t］

長野県

一次産品に加え、加工食品の生産も盛んな長野県。提携生産者とともに「ぐるっと長野地域協議会」を発足。それぞれの力を活かし、持続可能な社会モデルづくりをめざしています。

㈱おびなたのそば畑

米

品目数：6品目

注文数量：228,237袋

加工食品原料

出荷先：2生産者

加工食品原料の出荷量：170t

［加工用米 100t　そば 70t］

栃木県

青果物や牛乳、牛肉など、多数の生産者がいる産地。「まるごと栃木生活クラブ提携生産者協議会」を発足し、生産者が協調して地域の活性化や国内自給力の向上に取り組んでいます。

新生酪農㈱の指定酪農家・熊倉牧場

米

品目数：6品目

注文数量：134,537袋

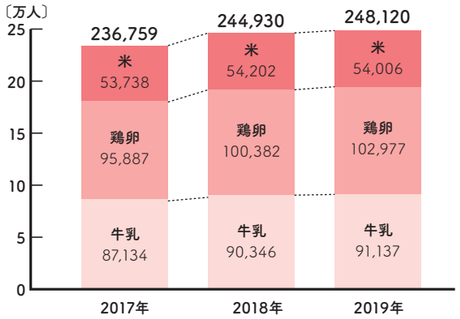
加工食品原料

出荷先：1生産者

加工食品原料の出荷量：218.1t

［加工用米 168.6t　その他 49.5t］

ビジョンフードよやくらぶの予約登録人数

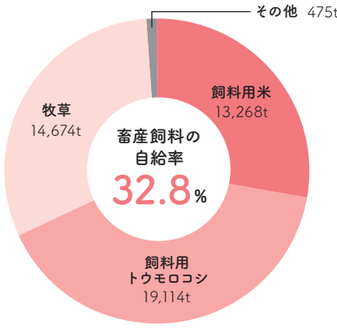


ビジョンフードよやくらぶの登録率

米	鶏卵	牛乳
25.8%	49.1%	43.4%

「よやくらぶ」は、組合員が予約した消費材*2を定期的に届けるしくみです。米、牛乳、鶏卵の予約できる「ビジョンフード*3よやくらぶ」は、予約することで継続的な利用が見込め、生産計画が立てやすくなることから、持続的な生産と消費の実現を支える力になっています。

畜産物の自給飼料の生産量



一般的に国内で飼育されている豚や鶏などの飼料の9割以上は、輸入に頼っているのが現状です。生活クラブでは自給率アップを目的に飼料から国産をめざし、使われなくなった田んぼを利用して飼料用のお米の栽培をしたり、その他飼料用作物の栽培にも取り組んでいます。

*1 一次産品
青果物やお米、牛乳、鶏卵、肉類など、自然からとったままの状態で、加工されていないもののことをいいます。

*2 消費材
生活クラブでは、取り扱う食品や生活用品を利潤追求が目的の「商品」ではなく、使う人の立場にたった材であるという思いを込めて「消費材」と呼んでいます。

*3 ビジョンフード
毎日の基本の食である牛乳、鶏卵、米、肉類などの一次産品を手に入れ続けるには、生産から流通・消費にいたるまで「ビジョン（展望）」を持つことが必要です。生活クラブではこれらの品目を「ビジョンフード」と呼び、共同購入を通じて生産者との提携関係を強め、未来の食の安心の実現をめざしています。

重要目標 1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

種子から生産・出荷・廃棄に至るまでの情報開示と公正で責任ある調達の実行

生活クラブが扱う野菜や果物などの農産物も、肉類や牛乳、鶏卵などの畜産物も、「いつ・誰が・どこで・どのようにつくって運んだか」を確認できるようにしています。「わかって食べる」ことを基本に、すべての情報を組合員に開示しています。

■農産物や畜産物の生産計画・生産履歴の開示

100%

農産物の栽培履歴*4を公開しています

生活クラブの農産物の生産者は、栽培履歴を必ず開示しています。農薬や肥料を例にあげると、栽培に使用予定のものの品名、有効成分等の詳細情報、使用予定の回数を品名ごとに記載。実際に使用した実績も、組合員からの問い合わせに応じて情報開示しています。

栃木県開拓農業協同組合のレタス畑

資源を守り持続的に利用していくため、消費材に使用する輸入原料の一部に「MSC認証*5」を使っています。「MSC認証」は水産資源と環境に配慮し、適切に管理された漁業で獲られた水産物の証。認証のついた水産物の使用が、海と魚を守ることにつながります。

■MSC認証の原料を使用した消費材の注文数量

35万3,630点

国内で自給できる種（しゅ）の維持と開発をすすめる

鶏肉・鶏卵の「国産鶏種」の生産と拡大に取り組んでいます。国内で食べられている鶏や卵を産む鶏のほとんどは、三世代前にさかのぼると外国からひなを輸入して育てたもの。国産鶏種は日本の気候風土にあった形質や、日本人の嗜好にあったものに育種改良できます。輸入に頼らない種の自給に挑戦しています。

純国産鶏種「さくら」と「もみじ」

何世代にもわたり国内で育種された鶏種で、生産履歴も明らかなうえ、日本の気候・風土に合わせた育種改良を積み重ねています。

鶏卵
国産鶏種の飼養羽数
49万羽

国産鶏種の「丹精國鶏」

日本の気候風土に適応した丈夫な鶏種の普及をめざし、国内で三世代以上にわたって育種し開発した国産鶏種です。

鶏肉
国産鶏種の飼養羽数
174万羽

*4 栽培履歴
作物をつくる過程のなかで、どんな作業を行なったのかを記録したもの。農業を続けていくうえでの重要なデータであるとともに、安全性を示すためにも大切な情報です。

*5 MSC認証
天然の水産物を対象をとし、海洋管理協議会（Marine Stewardship Council）が管理しています。

重要目標 2

素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。

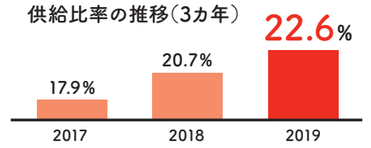
人体に有害と考えられる添加物や薬剤の使用を限りなく削減し、健康を保つことに貢献する食材の使い方や摂り方などの情報を積極的に共有します。

農畜水産における化学合成農薬や抗生物質などの使用削減

生活クラブの野菜はすべて「アースメイド野菜」と名付けて、生産者と一緒に土づくりからはじめ、「いつ・誰が・どこでどのように作ったか」栽培履歴をすべて明らかにすることを基本としています。そのなかでも「あっぱれ育ち」、「はればれ育ち」の野菜は、独自の基準のもと徹底した品質管理で届けています。

アースメイド野菜のロゴマーク

■「あっぱれ育ち」「はればれ育ち」野菜の供給比率の推移（3カ年）



あっぱれ育ち
栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料を使用しないで育てました。

はればれ育ち
栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料をできるだけ使わず育てました。

※栽培期間とは収穫する畑に種をまく、または苗を植えた後から収穫までの間を示します。
※削減指定農薬例外規定：はればれ育ちの大根のみ「テフルトリン」を例外として使用可能としています。

微生物の力を借りておいしい野菜を育てる

生産者グループ・㈲沃土会の畑では農薬に頼らずに野菜を育てるために、地元の土に住みつく微生物の力を活用。良質な堆肥や肥料をエサに、微生物がよく働く環境をつくることで病気を抑えています。肥料には生活クラブの提携先・米澤製油のなたね油粕や籾がら、米ぬかなど、原材料が明確なものを使用しています。

埼玉県深谷市にある㈲沃土会のトマト畑

生活クラブが提携する畜産生産者は、牛や豚、鶏ががのびのびとストレスなく過ごせる環境を整え、健康第一に育てています。そうすることで家畜が病気になりにくくなり、抗生物質に頼らない飼育が実現できています（病気の治療をのぞく）。

■抗生物質の使用を抑制または、不使用で飼育している食肉用家畜の数

牛
4,640頭
（9農場）

豚
15万頭
（46農場）

鶏
174万羽
（30農場）

無投薬で鶏を育てるために

「丹精國鶏」は、独自の基準で「抗生物質の使用禁止」を定めています。薬に頼らず育てるためには、鶏の持つ自己免疫力を落とさないことが大切です。そのために、鶏舎内の温度や湿度、風通しをこまやかに調整し、できるだけストレスをかけないように徹底しています。

群馬農協チキンフーズ㈱の藤岡農場

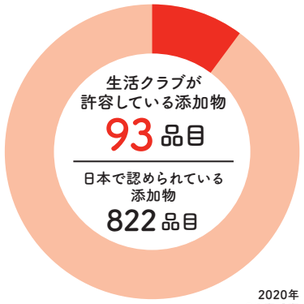
重要目標 2 素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。

栄養や伝統的な食べ方を活かした食品や、不要な食品添加物を使わない消費材の取組み

食品添加物に対する基本的な考え方は「疑わしいものは使用しない」「不要なものは使用しない」「使用したものはすべて公開する」です。日本で使用が認められている食品添加物は822品目。生活クラブではその約1/10を許容し、使用用途も限定しています。

■許容食品添加物

※日本で使用が認められている食品添加物には、「指定添加物」「既存添加物」「天然香料」「一般飲食物添加物」があります。右記の822品目と93品目は「指定添加物」「既存添加物」のことを指します。



2020年
3月末現在

■自主基準に沿って必要のない食品添加物を使わずにつくった消費材

2,597品目

健康でいきいきとした暮らしを送るために、安全性に配慮した食品を使い、栄養バランスのとれた食べ方を組合員に提案しています。また、食材が持つ栄養を活かした消費材や、伝統的な製法や調理方法でつくった消費材の開発もすすめています。

■ビオサポ食材セット

消費材や国産野菜、提携生産者の調味料を使った、生活クラブのミールキット。2〜3人分のメインディッシュがすぐにつくれます。

175品目

■美食百彩

子どもからシニアまで、あらゆる世代の健康をサポートする消費材シリーズ。食べやすい食感とシンプルな味付け、そして不足しがちな栄養素が摂れるものを揃えています。

19品目

ビオサポ活動*6を推進し健康に寄与する

「健康な食デザイン」を組合員が理解し日々の活動に役立てるために、各地域で学習会を開催。また、食べもの選びの大切さを基盤に、健康な食べ方を発信できる組合員を「ビオサポーター」として、各地域のイベントなどでその知識を活かしています。

■ビオサポ講座

開催数 60回

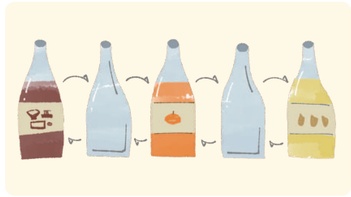
参加人数 905人

興味にあわせて参加できるビオサポ講座

各地域で開催しているビオサポ講座には、バランスのとれた献立づくりの知識を伝える基礎講座のほか、さまざまな講座があります。ビオサポーターの養成講座や子育て支援講座、シニアに向けた健康維持について伝えるアクティブシニア（美食百彩）講座などもあります。

*6 ビオサポ
「ビオサポ」とは、生命を意味する「BIO」と「美」を掛け、生命力にあふれた健康な食生活をサポートしていく、という意味の造語。食の安全性のみならず、健康な体づくりのために欠かせない栄養バランスのよい「食べ方」についても情報を発信しています。

重要目標 3 地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候変動対策に取り組みます。



生物多様性をおびやかす遺伝子操作を行なった食物を扱わないことを基本とし、その生産に反対します。また、生産・流通・消費・廃棄の各段階での環境配慮とともに重点的に温室効果ガスの削減に取り組みます。

遺伝子組み換え*7・ゲノム編集*8など遺伝子操作を行なった食物を扱わない

生活クラブでは「疑わしいものは使用しない」という考えから、遺伝子組み換え作物・食品は取り扱わないことを基本にしています。提携生産者と協力し食品の原材料、畜産物の飼料からも遺伝子組み換え作物を取り除いています。同様に、ゲノム編集された原材料も認めません。

遺伝子組み換えでない（Non-GM）トウモロコシを安定確保するために

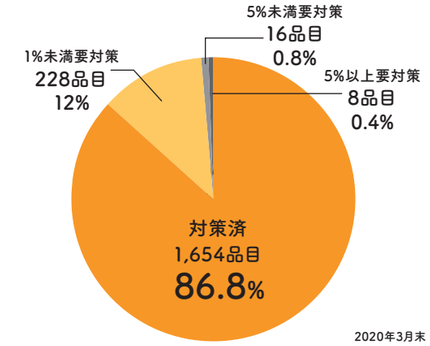
畜産物の飼料となるNon-GMトウモロコシを確保するために、組合員の代表が産地のアメリカを毎年訪問しています※。世界一の生産量を誇るアメリカで栽培されるNon-GMトウモロコシ（全体の7%）の中でも、収穫後に分別管理されたものはたった2%と推定されています。希少なNon-GMトウモロコシを安定的に確保するためには、生産者と交流しNon-GMトウモロコシの需要を示し続ける必要があります。

※2020年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催

2019年の訪米より。組合員の代表4名とトウモロコシ農家、集荷会社のスタッフ

飼料用のNon-GMトウモロコシ。畑で乾燥させてから収穫される

■GM対策済消費材の割合



2020年3月末

■NON-GM飼料の使用量

37,737t

GM作物の栽培やGM食品の生産・販売を拒否する「GMOフリーゾーン」宣言

GMOフリーゾーンとは、GM作物を栽培しない、使用しない地域のこと。1999年にイタリアのワイン生産者がはじめた運動です。生活クラブの提携生産者の多くが「GMOフリーゾーン宣言」をし、田んぼや畑に看板を掲げています。

面積 63,828.4ha

サポーター※人数 11,407人

2020年
4月現在

※「GMOフリーゾーン宣言」をした生産者を、支援すると宣言した消費者

生活クラブ愛知が取り組む「音羽米」の田んぼに立つ看板

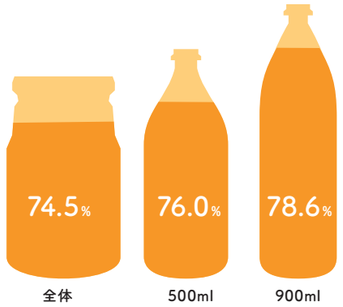
*7 遺伝子組み換え作物（GM作物／GMO）
ある特定の性質をつくるために、微生物など他の生物の遺伝子の一部を切り取って、自身の遺伝子に組み込む操作がおこなわれた作物のことです。（GMO：genetically modified organism）

*8 ゲノム編集食品
特定の遺伝子を壊す「ノックアウト」と、特定の遺伝子を外部から挿入する「ノックイン」の2種類があります。

重要目標 3 地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候変動対策に取り組みます。

グリーンシステム*9の推進と資源循環

家庭から出るごみの約60%が、容器や包材だといわれています。生活クラブでは、なるべくごみを出さず環境負荷を減らすために、調味料やジュースなどの容器を数種類のR(リユース)びんに統一し、回収して再使用する「グリーンシステム」に取り組んでいます。



■Rびん回収率

Rびんの種類は、用途に合わせて全部で6種類。68品目の消費材で使用しています。Rびんに加えて、2種の牛乳びんも回収とリユースに取り組んでいます。現在の回収率は75%程度ですが、いずれは90%をめざしています。

「ごみを出さない暮らし」は社会的な評価を受けています

1993年からはじめた「グリーンシステム」の20年以上にわたる実績が評価され、2018年に「第6回 環境省グッドライフアワード環境大臣賞(NPO・任意団体部門)」を受賞しました。

環境大臣賞 NPO・任意団体部門 GOOD LIFE AWARD

GOOD LIFE AWARD 環境と社会に良いことを応援します

有害化学物質の環境への放出を削減

生活クラブではせっけんの利用をすすめ、合成界面活性剤でつくられる合成洗剤は扱いません。家庭から排出される有害化学物質の60%以上は、合成洗剤の成分。天然の油脂とアルカリが原料のせっけんは、排出後に洗浄力も毒性もなくなり、環境に悪影響をあたえません。

生活クラブの「せっけん運動」

合成界面活性材は、石油や油脂などから科学的に合成した化学物質。自然環境のなかで分解しにくいために、河川の汚染や水生生物に悪影響を及ぼします。きれいな水を守るために組合員が立ち上がり、せっけんの上手な利用方法を広めたり河川の水質調査をしたりと、さまざまな活動をしています。

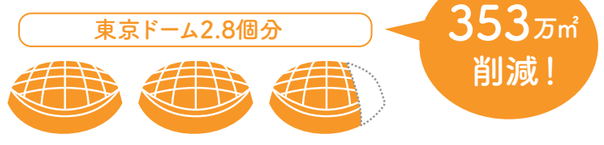
■合成界面活性剤の推定削減量

組合員が家庭内で1年間に使ったせっけん(洗濯用・キッチン用)の量から、一般的な合成洗剤を使っていたら排出されていたはずの合成界面活性材の量を推定しています。

生協事業による温室効果ガスの排出量削減

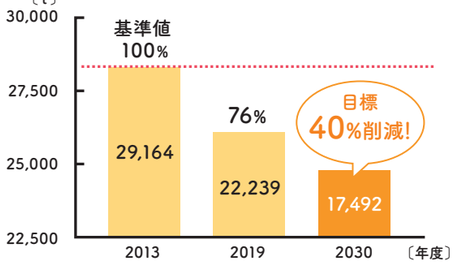
地球を過熱化する温室効果ガスの排出を、消費材の生産から流通、消費、廃棄に至るまでのすべての過程で減らすため、生活クラブグループ全体でCO_2排出量の削減に取り組んでいます。2030年のCO_2排出量を、2013年と比較して40%削減することを目標に定めています。

■2019年度 生活クラブグループのCO_2削減量



※2013年を基準として、2019年のCO_2削減量を容積で表すと東京ドーム2.8個分

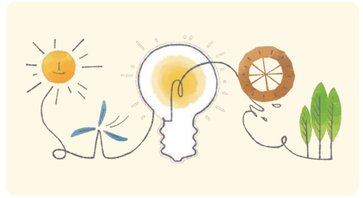
■生活クラブグループCO_2排出量の基準年に対する削減割合



※生活クラブグループの各施設の目標の積み上げでCO_2排出量40%削減をめざします。

*9 グリーンシステム
びんを回収・洗浄してリユース、プラスチック類をリサイクルするしくみです。Garbage Reduction for Ecology and Earth's Necessity(地球生態系のためのごみ減量)の頭文字(GREEN)から「グリーンシステム」と名付けました。Rびんと牛乳びんは再使用し、牛乳キャップや配達に使うピッキング袋はリサイクル原料として活用しています。

重要目標 4 原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組みます。



再生可能エネルギーによる電力をつくり、連帯と共同購入によって選択する人や事業者を増やし、原子力発電所が必要ない社会をつくります。

再生可能エネルギーによる電気の共同購入を推進

各地域の生活クラブと生活クラブ連合会が出資し、電力の供給・販売をする㈱生活クラブエナジーを設立しました。気候危機の原因とされるCO_2をほとんど排出しない、再生可能エネルギーを基本とした「生活クラブでんき」を組合員に供給しています。

生活クラブでんき

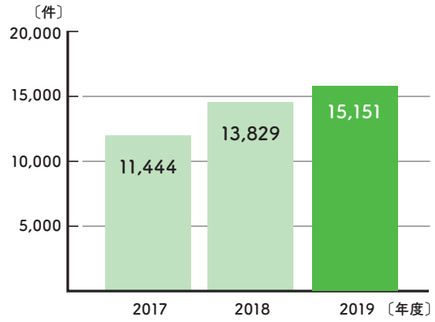
太陽光や風力、水力など、環境にあたえる負荷の少ない方法で発電している電気です。組合員と生産者がともに安心で安全な食べものをつくってきたように、「生活クラブでんき」もみんなで利用して育てていく消費材のひとつ。使う仲間を増やしながら、化石燃料や原発に頼らない社会をめざしています。

生活クラブ風車「夢風」(秋田県)

庄内・遊佐太陽光発電所(山形県)

会津電力㈱
雄国太陽光発電所(福島県)

■低圧契約実績数



再生可能エネルギーの自給率100%をめざす

毎日の生活に欠かせない電気を国や電力会社に任せきりにするのではなく、自分たちでつくり出す「エネルギーの自給」にチャレンジしています。提携する産地や賛同する事業者と連携して新たな電源開発をすすめ、再生可能エネルギーの自給率100%をめざしています。

開発が進む発電所

再生可能エネルギーの自給率100%をめざし、新たな発電所の検討や建設を進めています。

風力
院内風力発電(秋田県)

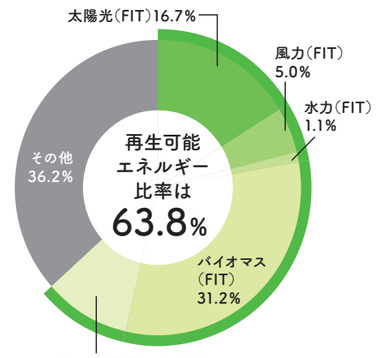
太陽光
野辺山営農型太陽光発電(長野県)
新飯能DC太陽光発電(埼玉県)

小水力
住吉川小水力発電(兵庫県)
大白川小水力発電(長野県)

■生活クラブでんきの再生可能エネルギー発電所

※バイオマスは、㈱生活クラブエナジーが提携する事業者から購入して供給しています。
※各発電所のアイコンは都道府県ごとに表示

■生活クラブでんきの電源構成比率



重要目標

5 誰もがその人らしく、安心して生活を営める地域と社会をつくります。

生まれてから生涯を終えるまで安心して生活を営むため、地域に必要な福祉事業および市民活動の環境整備と資源創出をすすめます。

孤立しがちな人、子育て世代や子どもを支えるための地域活動や事業をすすめるとともに、介護予防や健康維持のための活動を推進します。また、多様な人々の起業を支援するしくみをつくり、地域の福祉領域で働く人材を発掘します。災害時に地域でのたすけあいを支える、コミュニティづくりにも取り組みます。

■さまざまな人を支える地域活動と事業

あらゆる世代や状況下の人たちが元気で生きがいを持ち、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、居場所づくりや役割づくりをすすめています。何度でも再チャレンジできる社会をめざします。

地域数※ 58

まちの縁がわ「わ・おん」（東京都）で開催された、コミュニティカフェの様子

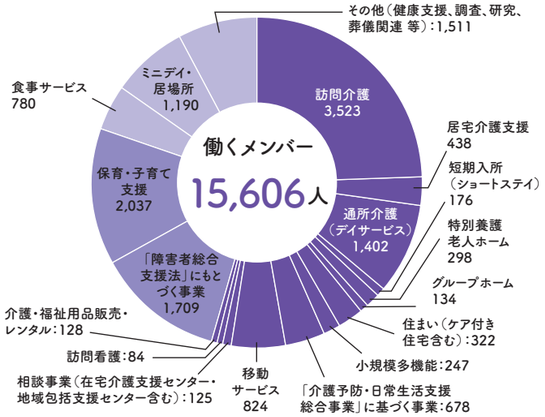
■介護予防への取組みと健康長寿の活動

健康づくりの支援として、手軽な運動方法や生活習慣の改善につながる情報をWEBサイトで定期的に発信。また「美食百彩*10」消費材と連動した、ビオサポアクティブシニア講座*11の開催を支援しています。

地域数※ 30

ビオサポアクティブシニア講座に参加した組合員（生活クラブ千葉・松戸センター）

■生活クラブグループの福祉事業で働くメンバー



■防災減災の活動と災害時の地域のたすけあい

防災、減災に対する意識を高め、常日頃から備えられるよう、防災ワークショップを開催。また、こくみん共済coop〈全労災〉が主催する防災セミナーと連携した、ライフプラン講座を共同開催しています。

ライフプラン講座防災ワークショップの開催数 19講座

参加人数 204人

ライフプラン講座の様子

※事業所が立地する自治体数（市区町村）

重要目標

6 貧困と孤立を見過ごさず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくります。

現代社会が生み出す貧困に目を向け、広がる格差と社会的弱者を孤立させる社会構造の変革をめざして、緊密なセーフティーネットを構築します。地域の連携を強化し、誰もが役割のある、お互いがたすけあえる社会をめざします。

社会的に不利な状況にある人々が、衣食住に関するサービスやケアを利用できるしくみをつくり、フードバンクや子ども食堂などを通して食の再配分と食育をすすめます。また、地域での学習支援や職業訓練のしくみを広げるとともに、社会的養護の下で育つ子どもや若者の伴走支援をすすめます。さらに、共済事業を広めることで、地域でたすけあえるしくみづくりにつなげます。

■社会的に不利な状況にある方へのサービスとケア

社会的に不利な状況にある人々が、衣食住に関するサービスやケアを身近に利用できるしくみをつくっています。その一環として、最低限度の生活の維持が難しい方などに対して、相談事業を行なっています。

地域数※ 8

「認定NPO法人コミュニティケア街ねっと」（千葉県）での家計相談の様子

■食の再配分と食育の推進

消費材をつくる生産者が集まる「生活クラブ親生会」と連携し、生活クラブフードバンクの取組みを推進しています。食品の提供先はこども食堂、居場所運営団体など、さまざまに広がっています。

提供先団体数 5県15団体

生産者数 17団体

組合員がボランティアで、食材の仕分け作業に取り組んでいます（フードバンク神奈川）

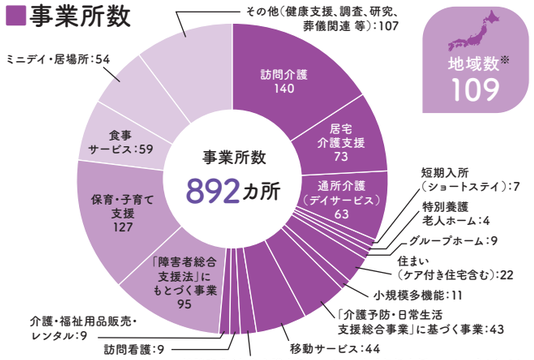
■誰もが役割のある場づくり

教育や進学に影響を及ぼす貧困の連鎖を断ち切るため、地域での学習支援や職業訓練のしくみを広げています。また、社会的養護の下で育つ子どもに対し一対一で継続的な支援をする、伴走型の支援をしています

地域数※ 10

生活クラブ長野・辰野支部を中心に立ち上げたNPO法人「辰野自立支援の会あかり」の学習支援

■事業所数

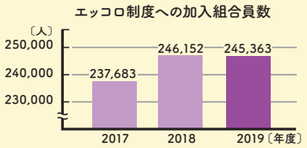


地域数※ 109

組合員どうしのたすけあい「エッコロ制度」

生活クラブ独自のたすけあいの仕組みです。制度内容は各地の生活クラブによって異なりますが、組合員同士が「お互いさま」の気持ちでたすけあうという趣旨は同じです。現在、14都道府県の生活クラブで実施されています。

エッコロ制度への加入組合員数



※事業所が立地する自治体数（市区町村）

*10 美食百彩
大人から子どもまで、あらゆる世代の健康な毎日の食卓をサポートする消費材シリーズです。

*11 ビオサポアクティブシニア講座
生命力にあふれた健康な食生活をサポートする活動「ビオサポ」の一環で、シニアの食をテーマとする講座です。

重要目標

7 非戦と共生の立場を貫き、平和で公正な社会をめざします。

戦争のない世界をめざし、海外の市民との多様な交流をすすめながら、社会的・経済的な発言力を発揮します。

生活クラブでは生産者と提携を結び、国内外問わず交流の機会をつくって提携関係を深めています。暮らしに必要な食材を共同購入して食べ続けることで、国内自給率の向上や生態系の保護、食の安全性を追求。次世代の子どもたちが安心して、健康に暮らせる社会をめざします。

国内の生産者とのつながり

組合員が産地を訪れ消費材について学ぶ「生産者交流会」をはじめ、生産者を各地の生活クラブに迎える「消費地交流会」や「学習会」も開催。ほかにも、国産加工用トマトの生産を支えるために、トマトの定植や収穫作業に組合員が参加する「計画的労働参加」も毎年行なっています。また、提携産地での農業体験や援農に参加できる「夢都里路くらぶ」にも、多くの組合員が参加しています。

牛乳消費地交流会	庄内交流会	加工用トマトの計画的労働参加
264人	64人	126人
食肉学習会	**夢都里路くらぶ企画**	**各地の生産者交流会**
3,733人	200人	181,028人

庄内交流会

毎年開催している、各地の組合員が山形県庄内地方を訪れる一大交流会。数日間をかけて米や青果、加工品などの生産者と交流します

食肉学習会

㈱平田牧場の生産者が組合員のもとを訪れる学習会を毎年開催

計画的労働参加

毎年夏に、加工用トマトの収穫に組合員が参加しています

海外の生産者とのつながり

生活クラブは国内では生産の困難な食品は、海外から輸入しています。海外産品であっても、消費材としての基準は国産のものと同じです。組合員が産地に赴き生産状況を確認することを含め、トレーサビリティーを追求。また、海外から生産者を迎えて、組合員と生産者の交流を図っています。海を越えて顔を見える関係を築き、生産者と私たちお互いが豊かになる提携をめざしています。

アメリカ

畜産物の飼料となるNon-GMトウモロコシの視察に、組合員が訪れました（2019年）

ベトナム

「ファーマーズシュリンプ」の生産者を組合員が訪問しました（2017年6月）

パプアニューギニア

「コーヒー・エリンバリ（パプアニューギニア）」の生産者を、組合員と生産者が訪れました（2018年4月）

アジア姉妹会議

生活クラブ連合会と台湾の主婦連盟生協、韓国の幸福中心生協連合会は、1999年に姉妹提携を結びました。シンポジウムを開催するなど、お互いの活動を学び合う交流を続けています

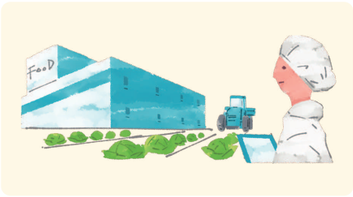
おおぜいの声を集めて社会を変える

ひとりの力は小さくても、それがたくさん集まれば社会を変える力となります。遺伝子組み換えの問題や再生可能エネルギーの普及、介護保険の問題など、暮らしに密接な制度やその課題について、意見発信をしています。国や自治体へ意見提出やパブリックコメントの提出をしたり、署名を集めて議会に陳情や請願を行なったりしています。

ゲノム編集食品の規制と表示を求める署名を、組合員の代表が農林水産省・環境省・厚生労働省・消費者庁の大臣と長官にあてて提出（2020年1月）

重要目標

8 情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。



組合員主権に基づく組織運営を基軸として女性のエンパワーメントを強め、SDGs達成に主体的に取り組みます。SDGsを超える取組方針についても、自主的な目標を定め、実行していきます。

独自の基準による自主的な管理と点検

原材料の調達・生産・流通・廃棄の各段階で独自の基準を定めて、自主的な管理と点検をすすめています。組合員と生産者が対等の立場で協力し合い、今とそして次世代にわたり安全に、安心して食べ、使える消費材になるように育てています。

生活クラブの自主基準

健康で安心して暮らせる社会をめざし、生活クラブでは「消費材10原則*12」に基づく「自主基準」を設けています。その範囲は農業・漁業・畜産・加工食品・生活用品、そして全ての消費材に共通する容器包装・放射能の分野にわたります。自主基準は消費材をつくる際に守るべき規格と、未来のあるべき姿に消費材を導くためのガイドラインで構成されています。

■消費材の自主基準登録数

2,143品目
（青果物除く）

消費材Step Up点検

組合員が消費材の生産現場を訪問し、共に決めた基準にそってきちんと作られているかを対面で点検する活動です。組合員の率直な質問によって生産者は製造面の見直しや新たな発見をし、組合員は現場を訪れることで消費材の優れた点や生産者のこだわりなどをより深く理解できる機会となっています。

㈱新生わたらい茶の消費材「有機わたらい一番茶煎茶」の工場で、目視検査の様子を点検（2019年11月）

「ふんわりチーズドッグ」をつくる㈱ミサワ食品（製造元：㈱東京下町らぼ）の点検の様子（2019年10月）

■消費材Step Up点検

2019年度実績
32件

累積実施数
1,237件
1997年～2020年3月末現在

安全・健康・環境に影響を及ぼす情報の開示

利益・不利益にかかわらず、安全・健康・環境に影響を及ぼす情報を積極的に開示しています。「放射能はこれ以下なら安全という値（しきい値）※はない。」という考え方に基づき、生活クラブでは、国の基準よりもきびしい「自主基準値」を設定しています。

※それ以下であれば、人体に影響はないとされる値のこと

放射能検査活動

2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してから、放射能による食品の汚染状況を全体的に把握するために検査を開始。徐々に検査装置の数を増強し、基準値をより厳しい数値に更新してきました。また、検査実績をもとにリスクが少ないと分かった品目の検査を減らし、検査すべき品目は検査頻度を増やしています。

ゲルマニウム半導体検出器

■放射能検査数

2019年度実績
9,028件

累積実施数
130,317件
2011年～2020年12月末現在

*12 消費材10原則
経済と社会に関する5つの原則と、環境に関する3つの原則、そして共生と自治に関する2つの原則で構成されています。消費材や取組みの一つひとつに反映され、"健康で安心な社会"の実現の基礎となっています。

生活クラブ

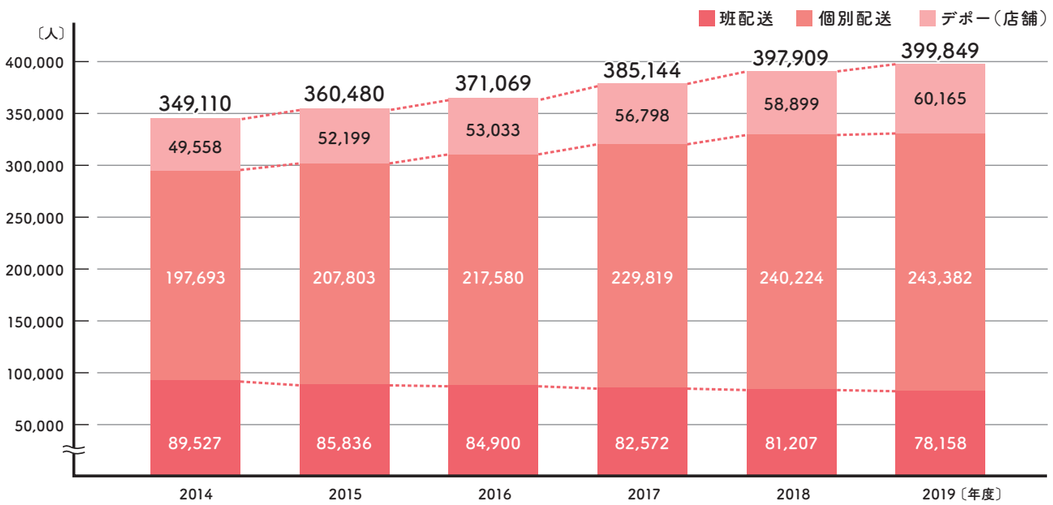
重要目標8は、組合員活動についてまとめた、SDGsに留まらない生活クラブ独自の目標です。

DATA 数字で見る動向と推移

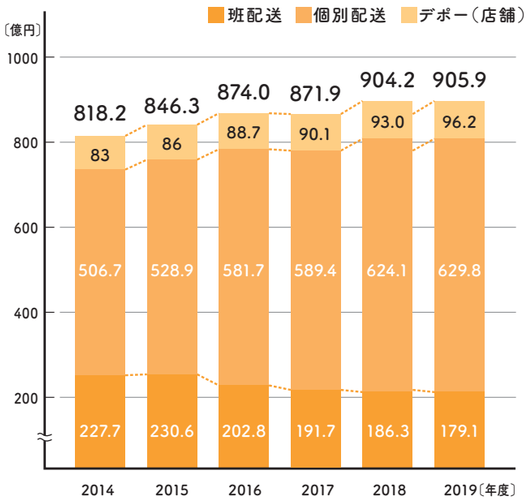
生活クラブグループの全体像が見えるデータをまとめました。
2019年度の共同購入の利用者数・事業高・出資金の推移と、福祉事業の事業高、
共済制度の加入者数推移を掲載しています。

DATA 1 数字で見る共同購入事業の動向と推移

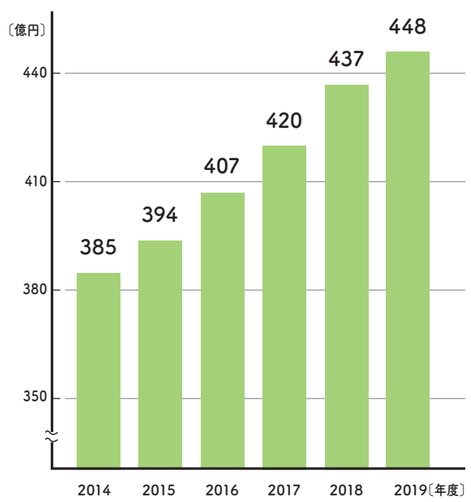
■組合員数の推移（業態別）※



■供給高・供給実績（業態別）※



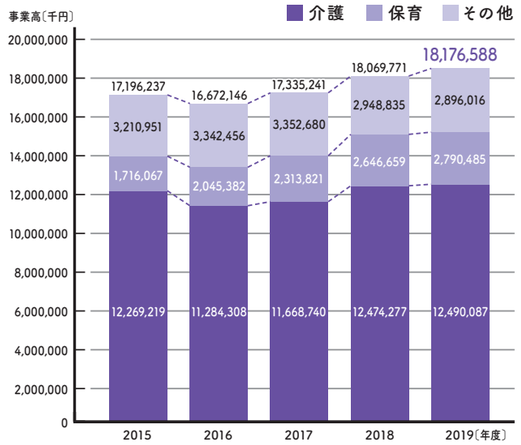
■出資金推移



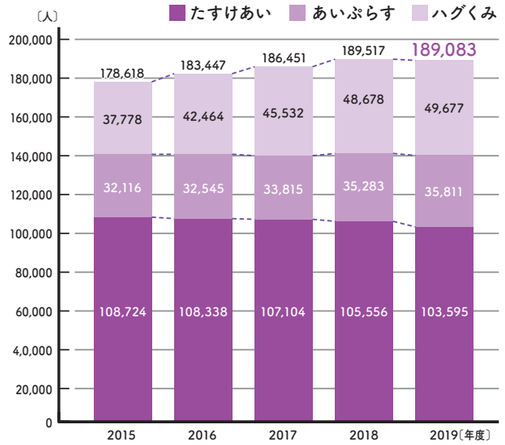
※各年度の合計値には、班配送・個別配送・デポー（店舗）以外の組合員数、供給高も含まれています。

DATA 2 2019年度生活クラブグループの福祉事業と共済制度のひろがり

■生活クラブグループ福祉事業の推移



■共済制度への加入者数



生活クラブのしくみについて

生活クラブは生協です。営利を第一の目的とする一般の企業とは異なり、
組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っています。

みんなで「出資」

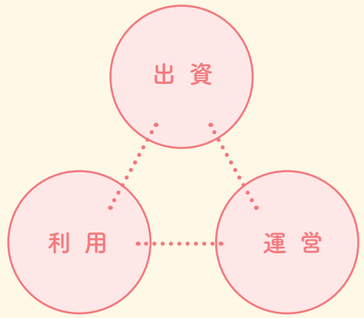
組合員は、自分たちの事業や活動を行うため、お金（出資金）を出し合います。生協の事業はこの出資金により運営されています。なお、生協を脱退される際には、出資金は全額返還されます。

みんなで「利用」

組合員は品物を買ったり、さまざまなサービスを受けたりします。

みんなで「運営」

「こんなものがあったらいい」など、取扱う品物やサービス、活動について、組合員がさまざまな意見を出し合い、運営します。



生活クラブグループ
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会【33単協 1連合会】

生活クラブ生活協同組合（東京）／23区南生活クラブ生活協同組合／北東京生活クラブ生活協同組合／多摩きた生活クラブ生活協同組合／多摩南生活クラブ生活協同組合
生活クラブ生活協同組合（神奈川）／横浜みなみ生活クラブ生活協同組合／横浜北生活クラブ生活協同組合／かわさき生活クラブ生活協同組合／湘南生活クラブ生活協同組合
さがみ生活クラブ生活協同組合／福祉クラブ生活協同組合（神奈川）／生活クラブ生活協同組合（埼玉）／生活クラブ生活協同組合（千葉）／生活クラブ生活協同組合（長野）
生活クラブ生活協同組合（北海道）／生活クラブ生活協同組合（茨城）／生活クラブ生活協同組合（山梨）／生活クラブ生活協同組合（岩手）／生活クラブ生活協同組合（静岡）
生活クラブ生活協同組合（愛知）／生活クラブ生活協同組合（栃木）／生活クラブ生活協同組合（青森）／生活クラブやまがた生活協同組合／生活クラブ生活協同組合（群馬）
生活クラブふくしま生活協同組合／生活クラブ生活協同組合大阪／生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ／生活クラブ生活協同組合（奈良）／生活クラブ生活協同組合（滋賀）
生活協同組合エスコープ大阪／生活クラブ生活協同組合都市生活（兵庫）／生活協同組合庄内親生会（山形）／生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会

関連会社
株式会社太陽ネットワーク物流／新生酪農株式会社／株式会社生活クラブ総合サービス／生活クラブ・スピリッツ株式会社／株式会社生活クラブたまご／株式会社生活クラブエナジー